

教育ひょうご

発行所 神戸市中央区中山手通4丁目10-8
兵庫県教職員組合
発行人 兵庫県教職員組合 代表者 泉 雄一郎
編集人 池田啓子
電話 050(3538)2346
1部7円 年定価280円
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2015/1・1

No. 1874

新年号



兵庫県学校厚生会写真公募展 審査員特別賞受賞作品 「誕生日おめでとう！」 土井 健司さん(篠山市立福住小学校) 撮影

日本教職員組合 中央執行委員長 加藤良輔
兵庫県教職員組合の皆様、新年あけましておめでとうございます。



昨年、2014年という年は、日本の戦後民主主義とはなっていたのか、その問いをあらためて突き付けられた一年でした。第二次世界大戦での「敗

戦」という事実を、日本人は受け止めたのでしょうか。完膚なきまでの「敗戦」を「終戦」という言葉にすり換えてきた日本社会。日本の戦後の歩みや誤った戦前の歴史から決別しようという覚悟に、ある種の曖昧さを残してしまっただけに思えます。その曖昧さが、「戦後レジームからの脱却」「強い日本を取り戻す」という主張を声高に叫ぶ、歴史の重みを自覚しない一部の政治家を生んでしまったのではないのでしょうか。東日本大震災、原子力発電所事故がもたらした被害を目的に持たず、あ

子どもたちの確かな未来のために！

兵庫県教職員組合 執行委員長 泉雄一郎
2015年の年頭にあたり、兵庫県教職員組合本部執行部を代表し、組合員・ご家族の皆様にごあいさつを申し上げます。



今年、阪神・淡路大震災(以下「大震災」)から20年を迎える節目の年です。大震災を機に広まったもの。「生きる力」「ボランティア」「心のケア」「E A R T H」

「心」のケア」については、大震災当時、認識が不十分でした。PTSD(心的外傷後ストレス障害)、トラウマ

R T H 震災・学校支援チーム」など。「生きる力」は、第15期中教審第1次答申(1996年7月)で示され、今日まで学習指導要領のキーワードとなっています。兵庫県では、防災教育検討委員会の提言(1995年10月)に「生きる力を育む」と示され、大震災が生んだ言葉として、国に先駆けて打ち出されたものです。そして、「いのち」の尊さが教育の原点にえられたのです。大震災10年を機に兵組が発刊した兵庫発の防災読本も『いのちやさしさ まなび』と名付けました。

私たちは、この間、フィンランド、OECD(経済協力開発機構)、中国の教育関係者と交流を深める機会に恵まれました。その中で、OECDが提言している「学力の国際標準」をふまえたとりくみが、各国で展開されていることがわかりました。「学力の国際標準」を中教審の表現を借りて言うと、「単に学校で知識・技能を習得するだけでなく、知識・技能を活かして、実生活・実社会で生きて働く力」多様な社会・グループにおける人間関係の形成力・調整力「生涯にわたって学び続け、市民社会に貢献できる力」となります。大震災が生んだ「生きる力」は、「学力の国際標準」と重なり、教育研究活動のサブテーマ「自立と

阪神・淡路大震災20年 「追悼の夕べ」・「国際シンポジウム」

1月17日(土) 17時30分から、ラッセホールで「阪神・淡路大震災20年 児童・生徒、教職員追悼の夕べ」を開催します。まもなく阪神・淡路大震災から20年を迎えようとしています。東日本大震災発生から3年9か月余りが経過した現在も、復興が十分にすすんでいない被災地の状況や避難生活を余儀なくされている方々の存在を忘れてはなりません。また、昨年は8月の丹波豪雨災害をはじめ、自然災害により多くの方が被災されました。

18日(日) 13時30分からは「阪神・淡路大震災20年 国際シンポジウム」心のケアの普遍化をはかるために」を開催します。阪神・淡路大震災以降、8回の国際シンポジウムを開催してきました。今回のシンポジウムでは、①いじめや事故等による子どもの心のケア、②教職員の共通理解や相互支援体制の構築、③保護者や関係機関と連携したチームとしてのシステムの確立等について、米国立南カリフォルニア大学大学院のマリー・ウォンさんと話し合います。

また、人権を基軸にすえた「助け合い」つながり「寄り添い」「ともに生きる」教育実践がいじめ等の防止にもつながることを見点におきながら、必要な「心のケア」のアプローチについて考え合う機会とします。

阪神・淡路大震災からの創造的復興を語り継ぎ 「いきるつながるみちひろく」教育改革運動に活かしていこう！

連帯、共生の学びと教育も同様だと考えています。「ボランティア」が災害発生の際に被災地に駆けつける姿を今では当たり前のように見ます。大震災のときには「ボランティア元年」と言われました。東日本大震災をはじめ、災害が起るたびに、助け合い、つながり、絆の大切さを改めて感じてきました。また、E A R T H が結成された当時(00年1月)は、これほど毎年のように災害が発生し、E A R T H が派遣されたと想像もしていませんでした。

学校現場の教職員の実践が豊かなものとなるよう、

兵教組本部は、勤務時間の適正化や教育環境・教育条件の整備・拡充、給与水準の向上、こころの通いあう学校づくりに向け、引き続き「参加・提言・改革」の運動をすすめてまいります。

また、4月に実施される統一地方選挙では、あらゆる施策が政治の場で決することから、兵政連予定候補者の全員勝利にむけてとりくんでまいります。



戦争をさせない1000人委員会・ひょうご学習会

「戦争する国」への暴走を止めよう!

12月14日、フォーラムひょうごは「戦争をさせない1000人委員会・ひょうご学習会」をラッセホールで開催した。兵教組・兵退教協からの参加者58人を含む196人が参加した。今後のとりくみ方針では、賛同人・賛同団体(12月13日現在、賛同人391人、賛同団体152団体)の拡大をすすめることや、政府が目論んでいる集団的自衛権関連法案の問題点について学習していくこと等が示された。



東海大学法科大学院教授の永山茂樹さんによる「安倍内閣の積極的軍事主義は日本をどう変えるか」と題した講演では、特定秘密保護法や集団的自衛権行使容認の閣議決定は、憲法秩序や自衛隊をどう変えるかを解説。変えてはいけないことを変えさせないためには抵抗主体の拡大・育成が必要だとし、「若い人たちに、憲法秩序を守る大事さを教え、連帯する力をトレーニングしていただきたい」と呼びかけた。

1月25日 兵政連 兵政連 兵政連 おくの尚美さん(西宮市)を推薦

欠員が2人になったことともなう兵庫県議会議員西宮市選挙区補欠選挙が1月25日(日)に執行される(告示は16日)。

兵教組は昨年12月9日におこなった第259回中央委員会で、おくの尚美(なおみ)さんの推薦を決定している。

お正月ファミリーパズル

まちがい探し! パズル制作:ひろみよこ



第64次県教研 (ひょうご教育フェスティバル) 記念講演 (要旨) 「命の鼓動 ~被虐待の淵を生き抜いて~」 兵庫県児童虐待等専門アドバイザー 島田妙子さん



新聞にそのことが掲載されると、「虐待されている」と、中1のとき心臓がバラバラに壊れそう感じた。虐待が長く続いていた上に、小児ちゃんがひどい小児ぜんそくで、院内学級がある病院に入院してしまっ...

虐待する「大人」の心を助ける 『子ども』を助けるんじゃないのか」とバッシングの嵐。だけど、そうではない。子どもを助けるという段階では、もう虐待は起こっている。そのときの対処は当然必要だが、その前に防止をしていかなければならぬ。担任には、「この子の家庭の親子を引き裂いてまでマッハ先生との奇跡の出会い」

お父さん、お母さんが犯罪者になる前に 子どものために、鬼になつていくお父さん、お母さんの姿を毎日見せ続けるなら、虐待していたお父ちゃんや、虐待して来たお母ちゃんを助ける。お母さんが犯罪者になる前に、お母さんが犯罪者になる前に、お母さんが犯罪者になる前に...

A grid of portraits of various council members and officials, including Fujii Junpei, Tsuchi Taihiro, Mizuoka Shun, Kitano Satoko, Kawajiri Hachiro, Iwano Akira, Sakimoto Yutaka, Katsurizumi Sumie, Morikami Shunji, Miki Hiroshi, Onaka Toshiyuki, Hiwada Masahiro, and Tsuda Kayoko.